

港区立三田中学校

令和4年度 授業改善推進プラン

1 本校における課題

国語	漢字の読み書きや文法など、知識・技能の領域については概ね成果が上がっている。一方で、文章を書くことに自信をもてない生徒も少なからずいる。そこで、単元ごとに多様な「書く活動」を取り入れ、その後の交流を通して、自己評価力を高め、自信を付けさせたい。 またコロナ禍のため話し合い活動を抑制した面がある。話す能力と聞く能力の向上について、コロナの感染状況を見極め、タブレットの活用など工夫を凝らしながら、授業を進めたい。
社会	「学習」の意味について、覚えることが「学習を行うこと」という一面的な理解の生徒がまだ多く、社会イコール「覚える」の認識レベルに止まっている。そのため、知識の活用や資料の読み取りに課題があり、さらに探求学習に取り組みにくい現状がある。
数学	3学年を通しての課題は、「思考力・判断力・表現力」の育成である。基礎、基本的な計算などは、どの学年においても定着している。しかし、その身に付いた知識をどうやって活かしていくかを考えることができない生徒が多いため、そこが課題である。深く追求する時間や友達同士で教え合いを行い、一つの問題に対しても多角的に捉えることで、様々な考え方を共有する時間を授業の中で作っていく。
理科	実験・観察を含め、授業に意欲的に参加している生徒は多い。興味・関心をもち主体的に取り組むことで、「知識・技能」の習得に結びついている。しかし、実験や観察の結果を受けて、「何がわかるようになったのか」また、「順序だてて説明をしてみよう」という問いかけには、考え込んでしまう生徒がいる。その点から「思考力・判断力・表現力」には、まだまだ課題があると考えられる。
外国語	英語に興味をもって取り組む生徒と、そうでない生徒との差が大きい。また、英文を読んでその内容に英語で的確に答えることが難しい生徒が多い。英語に興味をもっている生徒たちは小学校の外国語活動の成果として「聞くこと」の活動に慣れ親しんでおり、「話すこと」の活動に意欲的ではあるが、習得した知識等を生かしてコミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて自分の考えや気持ちを表現したり、簡単な語句や文章を正確に書いたりすることに課題がある。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	国語への学習意欲を維持・向上させ、「学びに向かう力」に留意するとともに、これを土台にして「思考・判断」と「知識・技能」の各領域についてその力を身に付けさせる。	「知識・技能」の領域に関する漢字や文法など基礎的なことを押さえたうえで、「思考・判断」に属する読解力や作文能力、話し合う能力の向上を図る。社会生活に必要なとされる具体的な言語活動を意識しながら、生徒が活動することを重視し、興味をもって授業に取り組めるよう努める。
社会	活用できる「知識・技能」の力の向上、課題等に自ら取り組み、深く考えそれを表現する力の向上。	ワークシートや課題学習、また、探求学習に取り組んでいく。そのために、年間計画に基づく単元学習計画の見通しを深め、生徒自身が手順を理解しつつ、学習目的をもって授業に臨めるようにする。

数学	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	基礎基本である「知識・技能」の向上、その上で実生活に生かすことのできる「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。	「主体的に取り組む態度」の育成をするために、まずは生徒が興味をもてる教材づくりに努める。その上で基礎基本である「知識・技能」を向上するために毎日の授業の中で復習する機会を設けて、積み残しがないように取り組ませていく。単元の最後では課題解決学習などに取り組ませ「思考力・判断力・表現力」を育み、実生活に使える力を身に付けさせる。

理科	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	「知識・技能」の定着の上で「思考力・判断力・表現力」の高いレベルでの育成をめざす。結果として、学んだことを生かして主体的に生活に生かしていく姿勢を育む。	全単元において、観察・実験などの目的を明確にした体験活動の機会を多く作り、その結果を丁寧に考察させる。アクティブラーニングの実施やタブレットの活用などを行い、情報を他と共有させることにより、新たな発見や問題点を見い出させ、今後のより良い生活へとつなげさせる。

音楽	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	「知識・技能」の確実な習得とともに、「思考力・判断力・表現力」の育成を様々な体験活動を通して目指す。	生の演奏を聴く機会を設定し多様な音楽に触れる機会をもつなどして、音楽への興味関心を高めていく。各分野を関連させながら音楽の諸要素の理解を深め、構造的に音楽をとらえ表現・鑑賞できるよう、生徒の資質・能力の育成を目指す。活動内容に合わせてタブレットを活用していく。

美術	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	課題を通して、「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力」を身につけ、心豊かな生活を創造していく姿勢を育む。	各課題の前後に、アイデアスケッチと計画、コメントや振り返りを設け、作品についてより詳しく考察させる。また、タブレット等を用い、多様な芸術作品や文化的な建築物等を鑑賞する機会を増やすことで、美術文化や生活との関わりについて考え、自身に生かそうとする姿勢を育む。

保健体育	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	運動を通して「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力」の資質・能力の育成に重点を置く。	さまざまな運動の実施、及び、ICT等を使いながら具体的な運動のイメージをもたせる授業を行っていく。また、男女共習に伴い、自他を認める姿勢を養いながら生徒が主体的に取り組めるようグループでの活動を多く取り入れていく。

技術・家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	課題解決力の伸長を目標とし、ものづくり活動を通して知識・技能を高めつつ、学んだことを活用できる思考力等の育成を目指す。	思考力を伸ばすために、生徒同士で意見共有したり、考えを発表したりする時間などを設ける。ものづくり活動は、事前に終了の時期と製作工程を示し、生徒が自ら見通しをもって製作を進められるようにする。完成後は、振り返りの時間も含め、成果を発表する場を設定する。

外国語 (英語・国際)	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	英語を話す道具として捉え、習得した知識を実際の会話へ活用しコミュニケーション能力を高めることを目指す。また、語彙や文法、表現などを定着させ、正確に英文を書く能力とまとまりのある英文を読み取る能力の育成を目指す。	コミュニケーション能力を高めるために、授業の導入として短い会話練習を行い、目的や場面、状況などに応じた言語活動を設定する。また、簡単な語句や文を用いて表現する場を繰り返し設定する。既習事項を繰り返し活用したり振り返ったりといった指導の工夫を図り、少人数体制を生かしたきめ細かな指導を行うことで基礎の定着を目指す。教科書を中心とした Q&A の取組や英作文の練習を繰り返すことで、英文を読み取る能力と書く能力の育成を目指す。

道徳	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	自他を尊重し共感し合い、責任感と自主性をもって行動できる力、そこからよりよい社会の実現へと見通せる力。	年間指導計画に沿って、ICTの活用も取り入れながら、資質・能力の育成を進める。指導内容や指導手順の共通理解をもとに、生徒の変容や成長した側面を積極的に評価して、その成果を踏まえ具体的な指導内容の研究も行う。

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	社会的能力(「社会の中で自己を生かす能力」、「社会に貢献する能力」、「人間関係を形成させる能力」)の育成を目標とし、社会性をもって生きていくために必要な能力を涵養する。	左記の能力の育成について、学級活動や委員会活動、生徒会活動、学校行事など学校における様々な活動の中で取り組む。他者と協働して成果を分かち合うこと、周囲への寛容な態度と心情、公共のものを尊重する心情の育成などを、これらの活動を通して涵養することに努める。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	情報収集やその活用、課題解決、コミュニケーション、自己表現の各能力を高める。自ら考え、主体的に行動できる自立した生徒の育成を目指す。	日々の学校生活や、様々な学校行事を軸にした取組の中で、調べ学習による情報収集やまとめ、発表による自己表現力を育成する。コミュニケーショントレーニングも併せて行う。ポートフォリオ評価(活動記録等のファイリング)を行う。活用資料を随時ファイリングし、学校全体で共有し活用する。